

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 23 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2022

課題番号：21K13586

研究課題名（和文）中学校家庭科における「対人スキル」育成を目指した未来志向型の授業開発

研究課題名（英文）Development of Future-Oriented Classes for the Development of Interpersonal Skills in Junior High School Home Economics

研究代表者

村田 晋太郎（Murata, Shintaro）

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号：60880713

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中学校家庭科における「対人スキル」育成を目指した未来志向型の授業を開発することである。研究方法は、対人関係に関する文献を収集・分析し、授業の開発することである。結果として、日本の家庭科教育では主に「今の家族」を題材にしたものが多いが、対象とした『Love Notes』は幅広い人間関係・近い将来の自分自身に目を向けさせている。そこで、日本の恋愛関係のイメージはLNで扱われているような多様性を踏まえた関係性とはなっていないと予測し、日本と諸外国のパートナーシップに関する理解をきっかけとするような教材を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これからの家庭科教育では、これらの課題を克服するために、家族や地域の人など生活を営む上で必要なコミュニケーション能力の育成を目指すことが求められている。本研究では、多様性や対人スキルをベースとして設計されたプログラムを分析し、日本の家庭科で実践可能な授業の開発をした。具体的には、パートナーに対する認識について日米間での差異があることを踏まえて、パートナーシップや多様性について理解を深める授業などを構想した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop future-oriented lessons aimed at fostering "interpersonal skills" in junior high school home economics. The research method was to collect and analyze literature on interpersonal relationships and develop future-oriented lessons aimed at fostering interpersonal skills.

As a result, while most Japanese home economics education mainly focuses on the "family of the present," the targeted "Love Notes" makes students look at a wide range of human relationships and themselves in the near future. Therefore, we predicted that the image of romantic relationships in Japan is not based on the diversity of relationships as treated in LN, and developed teaching materials that would trigger an understanding of partnerships in Japan and other countries.

研究分野：教科教育学

キーワード：家庭科 家族関係 対人関係

1. 研究開始当初の背景

家族の多様化、消費の変化、グローバル化や少子高齢化など、社会のめまぐるしい変化に対応できる資質・能力の育成を目指して、平成29年に学習指導要領は改訂された。家庭科、技術・家庭ワーキンググループは、学習指導要領改訂に向けて、社会構造の変化や家庭・地域の教育力の低下に伴い、(1)家族の一員として協力することへの関心、(2)家族や地域の人と関わる力、(3)家庭の実践に参画する意識、に課題があると指摘している。これからの家庭科教育では、これらの課題を克服するために、家族や地域の人など生活を営む上で必要なコミュニケーション能力の育成を目指すことが求められていると言える。中学校家庭科ではこれまで、ロールプレイングを方法として援用した授業研究が報告されている(鎌野,2016 他)。特定の状況でどう対応すればいいか、役割を演じながら、相手の立場になりながら解決策を検討する。

藤本・大坊(2007)は、コミュニケーションスキルの階層として、相手の気持ちを読み取る・自分の気持ちを表現するなどの「基本スキル」と、関係を調整する・問題発見・解決するなどの「対人スキル」の二階層を提唱している。ロールプレイングを用いた授業で達成されるのは、特定の状況でどう表現すればいいか、いわゆる「基本スキル」であると考えられる。これからの予測できない様々な状況に対応するための汎用的なスキルである「対人スキル」についても焦点を当てた授業を開発していく必要がある。

申請者は、「対人スキル」育成を目指した授業開発に向けて、Selman et al.(1986)などが開発したINS(Interpersonal Negotiation Strategy)モデルを援用し、保護者との葛藤場面における中学生の「対人スキル」の把握を行なった(村田・永田・小林,2020)。INSモデルとは、(A)問題発見、(B)解決方法の産出、(C)解決方法の決定・実行、(D)結果の評価、のステップで構成されており、いわゆる問題発見・解決過程で対人関係を見る理論である。また、対人関係の視野の広さについて、各過程を4レベルで評定することができる理論である(図1)。長峰(1999)は、保護者との関係性を広い視野で捉えられない理由として、これまでの保護者との関わりの中で、相手に対する反応の信念や予測がすでに内面にあることと指摘している。つまり、中学生と保護者の関係は閉ざされた関係性(Closed Relationship)であるため、変化しにくいものであるだろう。授業開発の方向性としては、改善が難しい「今の家族」から、「未来の家族(例えば、パートナーシップなど)」を扱う題材に転換を図り、その関係性の中で「対人スキル」の育成を目指すことによって、めまぐるしく変化する社会に対応できる生徒の育成につながると考える。

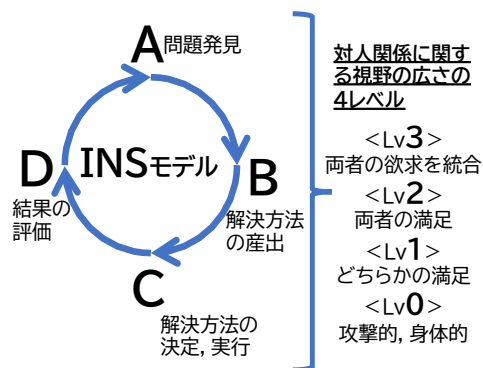


図1 INSモデルの各ステップと発達段階

2. 研究の目的

本研究の目的は、中学校家庭科における「対人スキル」育成を目指した未来志向型の授業を開発することである。

3. 研究の方法

(1)文献収集による未来志向型の対人関係に関する実践の現状把握

国内外の未来志向型の対人関係(主に恋愛関係、パートナーシップ、リーダーシップなどの文脈)に関する理論や実践を収集し、目標・指導・評価のように、授業の構成の視点から整理する。

(2)対人スキル育成を目指した未来志向型の授業開発

文献収集の結果より得られた知見を基に、授業の開発をする。申請者のこれまでの研究において、中学生に対して、理解した知識をリアルな文脈で活用する(活用)。題材としては、中学生が将来的に関わることが想定される恋愛関係やパートナーシップ、地域におけるリーダーシップに着目した。開発した授業については、事前に研究協力者である教員より評価を受け、生徒の実態に即した形での開発を目指す。

4. 研究成果

(1)文献収集による未来志向型の対人関係に関する実践の現状把握

Love Notes(以下、LN)は、Marline E. Pearson, M.A.によって2011年に健全な対人関係(主に家族、友人、パートナー、同僚など)に関する知識やスキルを獲得するために開発されたプロ

グラムであり、対象年齢は14～24歳と幅広い年齢層をターゲットとしている。また、米国の早期妊娠や性感染症などの予防プログラムとしての趣旨を併せ持っている。このプログラムは、ケンタッキー州のルイビル大学の研究者によって約1,400人の生徒を対象にした実践を通じて、プログラムを学習することで一定の効果が確認されている。そして米国保健社会福祉省(U. S. Department of Health and Human Service)が管理する10代の妊娠防止エビデンスベースプログラム(Evidence Based Programs)のリストに追加されており、高い評価を受けている。LNは全13レッスンで構成されており、各レッスン3～6のモジュール学習がある(表1)。LNは性的指向を限定せず、どのような性的指向を持つ青少年であっても学習しやすい工夫がされている。以下、LNの構成である。

表1 Love NotesのLesson概要

Lesson	Topic	具体的な題材	時間(分)
1	今日の関係性	・自己紹介	20
		・ビジョンの定義	5
		・赤線どちらを選ぶ?	10
2	あなた自身を知る	・映画の紹介	17
		・自分自身を知る	5
		・プライマリーカラーズ・パーソナリティ・ツール	25
3	未来への期待	・自分の出自を調べる	25
		・私にとって大切なこと	10
		・期待が果たす役割	25
4	魅力と人間関係の開始	・私自身の未来	10
		・素晴らしい人間関係のピラミッド図	15-20
		・愛、魅力の科学	32
5	賢い人間関係の原則	・素晴らしい関係(アクティビティカード)	10
		・賢い人間関係の7つの原則	20
		・素晴らしい関係を作るための7つの質問	5
6	健康な関係ですか?	・愛の3面モデル	15
		・人間関係の健全さ、不健全さ	35
		・人間関係を楽しむことの大切さ	5-10
7	危険な愛	・別れを決める方法	22
		・危険な愛(性的虐待)	20
		・デートDV	10
8	律しよう、陥らない!	・DV(子どもの目線)	15
		・うまくいかない関係に陥る	15
		・リスクの低いアプローチの仕方	10-15
9	コミュニケーションとは何か?	・意思決定、批判的思考力	15
		・パーソナル・ビジョン・エクササイズ	8
		・4つのコミュニケーションの危険信号	20
10	コミュニケーションへの挑戦とさらなるスキルアップ	・タイムアウトスキル	10
		・スピーカースキルス	25
		・コミュニケーションパターン	7
11	セックスについて話そう!	・人間関係の問題や不満	15-20
		・潜在的な人間関係の問題	15
		・人間関係の問題解決モデル	7
12	選択の計画を立てよう	・若者とセックス	10
		・親密さの6つの部分	15
		・性感染症や妊娠のリスク	8
13	子どもの目を通して	・ホルモンと性的興奮のパターン	5
		・ショートフィルム「歯磨き粉」	20
		・性的価値観	15
12	選択の計画を立てよう	・HIV/AIDSのショートフィルム	20
		・アルコールやマリファナなどのリスク	5
		・人間関係の圧力	20-30
13	子どもの目を通して	・個人的な計画	5
		・子どもの目線で家族を見る	15
		・父親の役割	10
13	子どもの目を通して	・父親の不在と人間関係	10-20
		・チャイルド・スピーク	20
		・若い世代の同棲	5
13	子どもの目を通して	・成功のための計画	5

自分自身に着目させながら、いかに人間関係が複雑で難しいか、適切な考え方を身につける必要があるかを理解させ、学習の動機を高める

人間関係のポジティブ、ネガティブな側面について考えさせる

予防教育の具体例として、セックス、妊娠、性感染症などとコミュニケーションとを関連させた題材

- ・自分自身に着目させながら、いかに人間関係が複雑で難しいか、適切な考え方を身につける必要があるかを理解させ、学習の動機を高める構成(レッスン1～3)。
- ・人間関係のポジティブ、ネガティブな側面について考えさせる題材(レッスン4～10)。
- ・予防教育の具体例として、セックス、妊娠、性感染症などとコミュニケーションとを関連させた題材(レッスン11～13)。

学習方法についてもオリジナリティに富んだモジュールが多くある。

- ・自分の性格を知るために、6つの側面から自己分析しやすい工夫がされたオリジナル教材(プライマリーカラーズ・パーソナリティ・ツール)。
- ・動画教材や映画の一部などをコンテンツにしたモジュール。
- ・思考ツールを用いて思考を促すモジュールなど。

学習目標・内容として、日本の家庭科教育では主に「今の家族」を題材にしたものが多いが、LNは幅広い人間関係であり、かつ現在だけではなく近い将来の自分自身に目を向けさせている。LNは繊細な学習においても、興味・関心を高める工夫がされており、またその学習方法が幅広く飽きない工夫がされている(村田,2022)。近年LNは注目されてきており、泉(2020)などでも報告されている。

(2)対人スキル育成を目指した未来志向型の授業開発

LNに掲載されているプログラムなどより、以下の視点を取り入れた授業の開発を行った。

- ・日本の恋愛関係のイメージはLNで扱われているような多様性を踏まえた関係性とはなっていないと予測し、日本と諸外国のパートナーシップに関する理解をきっかけとする。
- ・男性と女性からなる夫婦を前提とするのではなく、パートナーや友人などとの生活を想定した題材。
- ・カード教材などを用いて、交流が活発になるような工夫。

参考文献

藤本学,大坊郁夫(2006) コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み,パーソナリティ研究,15(3),pp.347-361.
 泉光世(2022) 小学校教師を目指す大学生の米国恋愛教育プログラム Love Note 3.0 のインパクト

ト：ソーシャルメディアを介した性や男女関係に関する被害防止のための教材に焦点を当てて、岩手大学教育学部研究年報,81,pp.53-65.

鎌野育代(2016)家族学習のロールプレイングにおける中学生の家族関係に関する学びのプロセス日本家庭科教育学会,58(4),pp.210-221.

村田晋太郎,永田智子,小林裕子(2020)中学校家庭分野「家族関係」における問題解決的な学習の指導指針の検討：INS モデルを用いた問題解決能力の実態把握を通して,日本教科教育学会誌,43(1),1-11.

村田晋太郎(2022)“Love Notes”の分析を通じた家庭科教育における対人関係を題材にした学習の方向性,日本教科教育学会第48回全国大会発表要旨

長峰伸治(1999)青年の対人葛藤場面における交渉過程に関する研究：対人交渉方略モデルを用いた父子・母子・友人関係での検討,教育心理学研究,47,pp.218-228.

Selman, R.L., Beardslee, W., Schultz, L.H., Krupa, M., & Podorefsky, D.(1986)Assessing Adolescent Interpersonal Negotiation Strategies:Toward the Integration of Structural and Functional Models,Developmental Psychology,22,pp.450-459.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鈴木千春, 小林裕子, 村田晋太郎, 永田智子	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 ワークシートの違いが絵本活用授業の学習効果に与える影響：小学校家庭科の家族の学習を題材に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育メディア研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24458/jaems.28.2_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村田晋太郎, 阪東哲也, 岩崎サオ里	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 小学校家庭科「ナップザック製作」における学習の個性化を支援するプログラミングを取り入れた教材の効果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育情報研究	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20694/jjsei.38.1_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村田晋太郎	4. 巻 41
2. 論文標題 家族を教える授業で育てる資質・能力とは？ コミュニケーションスキルに着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 家族関係学	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24673/jjfr.41.0_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Shitaro Murata, Natsuki Nagata
2. 発表標題 Current condition and problems in the life situations and parent-child relationships of junior high school students
3. 学会等名 International federation for home economics（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Natsuki Nagata, Shitaro Murata
2. 発表標題 The Distribution of Daily Resources for Childcare Group Participants
3. 学会等名 International federation for home economics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田晋太郎
2. 発表標題 "Love Notes"の分析を通じた家庭科教育における対人関係を題材にした学習の方向性
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀬川朗, 村田晋太郎
2. 発表標題 中学校家庭科教員のキャリア継続意識に関する試行的考察 質問紙調査票の作成
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田晋太郎, 岸田蘭子
2. 発表標題 日米家庭科教科書における家族に関する記述の比較 ;目標・学習内容・学習方法の視点から
3. 学会等名 教育目標評価学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田晋太郎
2. 発表標題 小学校，中学校家庭科における情意領域の評価に関する一考察 学習指導要領及び評価に関する参考資料の分析を通して
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------